

平成 28 年 8 月の子ども市会において子ども議員から「いじめについて考える日」の設定についての提案が、市長にされたことを受け、平成 30 年度から大阪市は「いじめについて考える日」を設定し取り組んでいます。今年度は、5 月 10 日の月曜日が「いじめについて考える日」と設定されました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のためホームページにより、いじめを生まない意識を高めてもらうためのお話をさせていただきました。今年度は、緊急事態宣言期間中であることをふまえ、放送により、いじめを生まない良い空気感をつくり、だれもが安心できる居場所づくりについてみなさんにお伝えさせていただきます。

『ゴールデンウィークが明けた月曜日は、新学期が始まる日と同じように命を絶つ児童生徒が生まれやすい特異日であることもあり、「いじめについて考える日」がこの日に設定されました。4 月からの緊張感が続いて疲れが残り、5 月は様々な行事に向けた取り組み等が重なり、不安感が募る時期でもあります。そうしたことから他者を傷つけるようなことばや行動のリスクが高まります。現在、新型コロナウイルスの感染拡大が続く状況において、目に見えないウイルスへの恐怖は、感染への不安から逃れるための心理的なメカニズムにより、他者に対して攻撃的な言動に陥りやすくなります。戦う相手はウイルスであるにもかかわらず、他者を非難し、排除しようとする残念な行動が発生しやすくなります。また、デマを含む様々な情報に一層不安感を募らせる人もいます。今、大切にしてほしいことは、知りえた情報を冷静に分析し、判断する意識です。感染を予防し、この厳しい状況を乗り越えるためにも批判的な考え方に陥ることなく正確な知識と理解を深めてほしいと思います。感染を予防するためソーシャル・ディスタンスのように人と人との距離が感染予防に必要とされる現状においては、心の距離感が不可欠です。人間は、唯一ことばを発することで、相手との距離感をはかりながら仲間意識を醸成する「ヴォーカルグルーミング」により社会生活を営みます。ですから、ことばの持つ影響力はとても大きく、ことばによる心の傷は計り知れません。いじりや悪ふざけが、いじめにつながることを理解し、相手も自分も大切にするコミュニケーションはとても大切です。不要・不急の外出を控えなければならない緊急事態宣言中においては、LINE などを通じたやりとりをしている人も多いと思います。LINE 等の文字による辛辣な表現やことばも相手に与える影響は大変なものとなります。LINE 等で辛い思いをする人がいないことを祈ります。新型コロナウイルス感染症の終息について今はまだ不透明ですが、登校時には必ずマスクを着用し、大きな声での会話を控えることが感染予防には不可欠です。そこで、みなさんにはノンバーバル・コミュニケーションを大切にしてほしいと思います。これは、発声による会話ではなく、表情、仕草による会話です。感性豊かなみなさん一人ひとりの笑顔がソーシャル・ディスタンスによる物理的な距離を超えて、心の距離感を縮め、仲間意識を育むことができると考えています。生徒のみなさんの笑顔と人を大切に思いやる心で、学校が最も安心できる居場所となれば幸いです。笑顔は他者を積極的に受け入れようとする最も重要なメッセージです。笑顔溢れるみなさん一人ひとりの前向きな姿勢がすばらしい空気感をつくります。ともにがんばりましょう。頑張ることが自己肯定感を高め、晴れ晴れしい笑顔となり、さらに顔晴ることにもつながります。非認知能力に優れた菫中学校のみなさんの協力に期待しています。

安心・安全な教育環境を維持するために本校の教職員をはじめ、スクールカウンセラー・生活指導支援員・スクリーニングサポートスタッフの人たちとともに私たちスタッフ一同生徒の皆さんを全力でサポートします。』